

目指す学校像	わくわく・いきいき・どきどき、「みんなの瞳が光ってる」学校
--------	-------------------------------

重点目標	1 主体的に学び合い、誰もが成長できる学校 2 安全・安心と美しい環境で、心が潤う学校 3 地域の力で、子どもがすくすくと育つ学校 4 指導力の向上を目指して、学び続ける学校
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
年 度		目 標			年 度 評 価		実 施 日 令 和 6 年 2 月 8 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べて若干低い結果である。 ○与えられた課題はそつなく取り組むが、発展的内容や主体的な活動につながらない。 〈課題〉 ○低学年での1人1台端末の積極的な活用や全学年を通したより効果的なICT機器の活用が課題である。 ○自己採点等の学習の結果を自らの学習へと生かし、調整しながら主体的な学びへつなげていくことが課題である。 ○全教職員で児童の情報を共有し、児童の実態に即した学習活動を展開することが課題である。	・指導方法の工夫と主体的な学びによる確かな学力の向上 ・主体的に学び合い、誰もが成長できる学校	①国語、算数を中心に、休み時間や週休日にスタディサプリ、ドリルパークなどで苦手な分野に取り組めるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリング研修を行い、全教員で本校の現状を把握し、学校全体で児童の学力向上を図る。	①国語、算数について、全児童に対して学習の取組状況を把握し、目標をもって学習できるようにできたか。 ②児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向け行動できるようになったか。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを共有することができたか。また、学校評価、「学びの指標」において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①1人1台端末を活用し、ドリルパークやムーブノート、スタディサプリの活用を図った。 ②児童が端末を活用し、自己採点を行い、自らの学習状況をつかむことができた。 ③学力向上カウンセリング研修を実施し、全教職員で本校の現状を把握するとともに、問題の傾向を知ることができた。また、学校評価「よく学ぶ子」の項目において、児童、保護者、教職員共に肯定的な回答が80%以上となった。(児童90%以上3項目、教職員90%以上4項目)	A	①低学年での1人1台端末の積極的な活用やより効果的な活用について検討する。朝学習や休み時間等、活用を図る時間を教育課程として組み込む。 ②自己採点を行い、その結果を自らの学習へと生かしていきけるよう児童が目標を立てる時間を設定する。 ③引き続き全教職員で学力向上カウンセリング研修を実施する。校内研修等を通して、学年で情報を共有する時間を確保する。	・授業を受ける態度もよく、積極的に発言し、活気がある。 ・毎日学校に行くのが楽しみだと子どもが言っている。 ・黒板を使わず学習の仕方が変わってきている。 ・先生の話にしっかりと耳を傾けている。 ・美術や音楽等、人間力の育成にも力を入れてほしい。 ・落ち着いて授業を受けている。配慮を要する児童の家庭との連携が必要。 ・外部講師の講演等、体験学習ができるのがよい。
2	〈現状〉 ○学校評価「よく学ぶ子」の項目は、5つの項目すべてで肯定的な回答が教職員、児童90%以上、保護者80%以上であった。 ○学校評価「安全に気を付けて生活できた」の児童の肯定的な回答が、93.8%、「安全な環境を整えている」の保護者の肯定的な回答は86.1%であった。 ○施設・設備の不具合が原因のけが0件、救急車要請1件、医療機関受診56件であった。 〈課題〉 ○教職員の共通理解、共通行動による生徒指導、教育相談体制の確立が課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、行った結果に対して迅速に対応し、修繕及び管理を行うことが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな生徒指導、教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全・安心と美しい環境で、心が潤う学校	①情報端末(Forms)を活用した児童アンケートの実施をはじめとして、一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②生徒指導、教育相談に係る校内委員会で児童の情報交換を行い、児童の状況を細やかに把握し、組織的に支援・相談を行う。	①学校評価に係るアンケート(教職員)において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(児童、保護者)において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①学校評価「心ゆたかな子」の項目は、5つの項目すべてで肯定的な回答が教職員、児童、保護者80%以上であった。 ②学校評価「たくましい子」の項目は、5つの項目すべてで肯定的な回答が児童90%以上、保護者、教職員80%以上(教職員4項目90%以上)であった。	A	①児童が「心豊かに生活している」と思っている現状を肯定的に受け止めながら、引き続き生徒指導、教育相談体制の充実を図る。 ②組織的な生徒指導、教育相談対応を心がけ、教職員の共通理解を図り、児童、保護者に寄り添った対応に努める。	・トイレは改修されたが、古く使いづらい所がある。 ・いろいろと工夫しているのが伝わってくる。 ・掃除ははしていても廊下や階段にほこりが多く気になる。 ・校庭が広く休み時間等、元気に遊べる環境がよい。 ・建物周りに凹凸がある。 ・図書を購入、廃本状況が知りたい。 ・車椅子への対応等苦勞が感じられる。(階段昇降機設置) ・トイレもきれいになった。私物の管理、場所等が課題。
3	〈現状〉 ○学校評価「家庭・地域との連携」について、3つの項目すべてで教職員、保護者共に肯定的な回答が90%以上であった。 ○学校教育目標達成度アンケートにおいて「地域との連携」の肯定的な回答の割合が89%であった。 〈課題〉 ○学校評価に係るアンケート結果を教職員で十分に共有し、充実を図ることが課題である。 ○日々のWebページ更新と共に、教職員の役割を分担し、活用を推進することが課題である。 ○学校運営協議会の熟議を通してまとまった意見の具現化を図り、本校のキャラクターを用いた「目印」の作成を行うことが課題である。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 ・地域の力で、子どもがすくすくと育つ学校	①Webページを更新し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校保健委員会をはじめとする学校行事等を保護者、地域の方がオンラインで参観できるようにし、学校の教育活動に対する関心を高める。	①学校評価に関するアンケート(教職員)で「家庭や地域の願いや期待の具現化を図っている」と回答する割合(肯定的)が80%以上となったか。 ②上記のアンケートで「Webページ等による教育活動の適切な提供」に回答する割合が80%以上となったか。	①学校評価「家庭や地域の願いや期待の具現化」において、教職員の肯定的な回答が90%であった。 ②学校評価「Webページ等による情報の適切な提供」において、教職員の肯定的な回答が90%、保護者が91%であり、家庭、地域と共有できた。	A	①学校評価に係るアンケートを2学期末に実施し、結果を教職員に周知したが、結果を十分に共有し、充実を図ることが課題である。 ②Webページによる提供を引き続き実施するとともに、役割を分担し、計画的な更新等に取り組む。	・保護者が個人ではなく全体を見ると考えや見方が変化する ・もう少し交流があってもよい ・登下校時、地域、保護者に見守られている環境がある。 ・子供会がなくなると聞き、触れ合う機会が減る。 ・学校からの提案が必要。 ・安心メール等、細やかな配慮が感じられる。 ・下校時の安全面が課題。協力する保護者が偏っている。 ・不審者情報が増加し、防犯意識が大切。
4	〈現状〉 ○学校評価アンケート「授業に関する項目」で肯定的な回答が93.1%であった。 ○「よい授業」アンケート「ICTの活用」が1回目84.0%と比較し2回目が88.2%へ向上し、活用が図られている。 〈課題〉 ○教職員間での取組の差を含め、エバンジェリストを中心としたICTの効果的な活用方法が求められる。 ○学校課題研修は昨年度までの成果を生かし、今年度への円滑な接続を図るとともにさらなる充実を図ることが課題である。	・指導力の向上を目指して学び続ける学校	①毎週木曜日の研修や学期1回の研究授業を通して研究を推進する。 ②エバンジェリストを中心に、全ての教員がICTについて学ぶ研修を毎月や長期休業中に実施する。 ③一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を自己評価面談時に設定し、目標に向けた授業を年間1回以上公開する。 ④「学びの指標」との関連を図りながら、ICT機器の授業における効果的な活用を図るとともに、児童の積極的な活用を推進する。	①学校課題研修への取組を通して、教科を通して児童の「自己有用感」をはぐくむことができたか。 ②全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ③全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、学校評価アンケート「授業に関する項目」で80%以上となったか。 ④「学びの指標」において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①学校評価アンケート(児童)「一生懸命学習に取り組む」「勉強がよくわかる」の2項目において肯定的な回答が、95%、09%であった。 ②「学びの指標」アンケート「ICTに関する項目」は78%であった。 ③学校評価アンケート「授業に関する項目」(教職員)は12項目全てで肯定的な回答が80%以上となった。(90%以上10項目) ④「学びの指標」において、「主体的：80%」「探求的：83%」「基礎：85%」と肯定的な回答の割合が80%以上となった。	A	①学校課題研修は研究協議会を3回実施し、研修の充実を図った。次年度への円滑な接続を図る。 ②プロジェクタの設置を始めとし、ICTの効果的な活用が図れた。支援員との効果的な連携が課題である。 ③自己評価面談をより効果的に活用し、年間を通して自身の目標を意識できるようにする。 ④ICT機器を活用した主体的、協働的な学びの数値が低いいため、次年度の課題である。	・もう少し活気があっても。 ・教職員のやるが多く、夜遅くまで残っている。 ・教職員が身近に感じられない。各行事への参加を検討。 ・明るく対応して下さっている先生が多い。 ・一生懸命な様子が伝わる。同時に働き方改革を進める必要がある。 ・作業の効率化が図れるとよい